

氏名	高橋友香
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5092 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinicopathological analysis of 17 primary cutaneous T-cell lymphoma of the $\gamma\delta$ phenotype from Japan ($\gamma\delta$ 形質を示す原発性皮膚 T 細胞リンパ腫 17 例の臨床病理学的解析)
論文審査委員	教授 岩月啓氏 教授 豊岡伸一 准教授 和田 淳

学位論文内容の要旨

一般に、T 細胞受容体 (TCR) が $\gamma\delta$ の形質を持つ原発性皮膚 T 細胞リンパ腫 (CTCL) は著明に予後不良で、化学療法への抵抗性が知られている。今回我々は、CTCL- $\gamma\delta$ 17 例の臨床病理学的特徴を解析し、皮下脂肪織炎様 T 細胞リンパ腫 (SPTCL) の形態をとるグループにおいて治療反応性、予後など臨床上比較的緩徐な経過をたどることを発見した。CTCL- $\gamma\delta$ 17 例のうち、6 例が SPTCL の形態をとり (CTCL- $\gamma\delta$ with SPTCL feature)、11 例が SPTCL の形態をとらなかった (CTCL- $\gamma\delta$ without SPTCL feature)。SPTCL の形態をとるもの (SPTCL、CTCL- $\gamma\delta$ with SPTCL feature) は TCR $\alpha\beta$ 、 $\gamma\delta$ の形質に関わらず、調査時点でそれぞれ 1 例を除き生存しており、同様に予後は比較的良好で、有意差はみられなかった。CTCL- $\gamma\delta$ without SPTCL feature は診断後短期間で死亡しているものもあり、著明に予後不良であった。CTCL- $\gamma\delta$ with SPTCL feature も、今まで予後不良とされていたが、このグループには予後良好群も含まれることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、 $\gamma\delta$ T 細胞形質を有する原発性皮膚リンパ腫 17 例のうち、特に皮下脂肪織を病変主座とする 6 例と、それ以外の 11 例について、免疫形質、細胞障害性分子、T 細胞受容体などの細胞学および分子マーカーの解析を行い、予後を比較したものである。その結果、皮下脂肪織病変を主座とする群では、 $\gamma\delta$ T 細胞の形質をとりながら、予後は良好であった。それ以外の $\gamma\delta$ T 細胞形質を有する群の予後は不良であった。この結果は、これまで $\gamma\delta$ T 細胞形質を有するリンパ腫は予後不良とされてきた概念を打破する重要な知見であり、リンパ腫治療にも大きな影響を与えるものと思われる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。